

経営健全化方針に基づく取組状況（令和2年度）

○法人名：株式会社 いきなスポレク

○経営健全化方針を策定した理由

- ・債務超過が19,671千円発生したため、策定したもの。

○財政リスクの状況

	平成30年度	令和元年度	目標達成年度 (令和10年度)
債務超過額 (千円)	19,671	48,415	0
事業の内容に応じて時価で評価した場合の債務超過額 (千円)	—	—	—
土地開発公社のうち債務保証 又は損失補償の対象となっ ている保有期間5年以上の土地 の簿価総額 (A) (千円)	—	—	—
損失補償、債務保証及び短期 貸付けの合計額 (B) (千円)	0	0	0
標準財政規模 (千円) (C)	—	—	—
実質赤字比率 (%)	—	—	—
(A) / (B) (%)	—	—	—
(B) / (C) (%)	—	—	—

○主な取組状況（令和3年1月現在）

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

<スポレク部門>

- ・コロナ禍における大都市圏からのスポーツ合宿利用等が厳しいことから、近隣である中国・四国地方からの誘客に努めた。また、平日対策として、岩城橋の工事関係者等の宿泊受け入れを積極的に実施。
- ・宿泊者への食事提供を、外注から自社調理に変更して、外部発注費の削減に努めた。
- ・施設への誘客にこだわらず、近隣地域へインストラクターを講師として派遣、売上の確保に努めた。
- ・離島の特徴をいかした体験プログラムをPRして、今後を見据えた教育旅行の誘致を旅行会社と連携して行った。

<ホテル部門>

- ・コロナ対策を万全なものとし、離島であるハンデをプラス素材と考え、感染拡大地域以外からの（特に愛媛県内）集客に努めた。
- ・混雑緩和の観点で、団体客から個人客の取り込みに特化し、販売単価UPに努めた。
- ・レンタサイクルやバーベキューなど、屋外におけるアクティビティを充実させる事で付帯売上の拡大に努めた。
- ・経費抑制対策として、閑散日には、営業時間の短縮や休館を実施、節電等を徹底的に行う事により、光熱費の削減に努めた。
- ・人件費抑制対策として、スタッフが複数の担務を兼任できるように、職場の固定から時間の固定に変更し、無駄な残業代のカットに努めた。
- ・食事メニュー数を減らし、食材仕入れのコストダウンと調理作業の効率化に努めた。
- ・館内着の洗濯を、外注からスタッフが行うように変更し、衛生費の削減だけでなく、従業員に対しての節約意識をもたせるように努めた。

【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応】

- ・毎月の収支状況について確認し、経営状況の把握に努めている。
- ・外部団体等に経営・財務分析の調査を依頼し、債務超過の要因となったホテル経営に関する経営・財務分析を行っている。

○法人の財務状況
(貸借対照表から)

	平成 30 年度	令和元年度
資産総額	47,600	27,251
（うち現預金）	31,075	13,864
（うち売上債権）	4,813	2,818
（うち棚卸資産）	900	1,715
負債総額	67,271	75,666
（うち当該地方公共団体からの借入金）	0	0
純資産額	△19,671	△48,415

(損益計算書から)

	平成 30 年度	令和元年度
経常収益	174,839	174,067
補助金収入	0	0
委託料収入	29,438	37,219
経常費用	221,675	202,123
減価償却費	2,507	1,748
経常損益	△46,836	△28,056
経常外損益	△97	△616
当期純損益	△46,933	△28,743